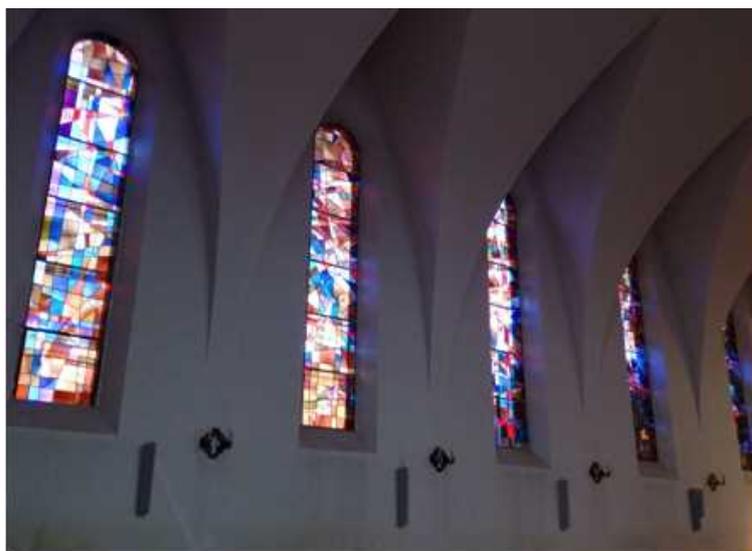


81 モンタルジのステンドグラスと日本（2021年9月30日）

パリから南に約 120 キロのところに、モンタルジ（Montargis）という人口 15,000 人ほどの町があります。ロワン川とその水を引いた運河に囲まれ、数多くの橋がかけられた水の町で、「ガティネのヴェネツィア」(Venise du Gâtinais) と呼ばれています。ガティネとは、古くから使われているこの地方の名前です。この町で、ステンドグラス作家として活躍した日本人がいました。

松田日出雄さん（1943-2020）は、1970 年代にパリでステンドグラスを学んだ後、日本で工房を立ち上げて、教会、公共の建物、個人の住宅などに数多くのステンドグラスを制作しました。そして、フランスでは 1997 年に設立したモンタルジの工房を拠点にして、多くの教会のステンドグラスの修復や制作を手掛けながら、後進の育成に当たりました。松田さんがステン



Eglise Sainte Thérèse des Closiers, Montargis
© Atelier Matsuda

ドグラスの修復を手掛けた教会の一つが、モンタルジにある聖テレジア教会（Eglise Sainte Therese des closiers）です。モンタルジの近くにあるトリ



Eglise St Martin,
Triguère
© Atelier Matsuda



Eglise St Etienne,
Château-Renard
© Atelier Matsuda

ゲール（Triguère）やシャトー＝ルナール（Château-Renard）には、松田さんが新たに制作されたステンドグラスがあります。ステンドグラスは、ヨーロッパのキリスト教の教会建築とともに発展してきたものです。今でこそ、ステンドグラスの美しさは日本でも知られるようになりましたが、松田さんがステンドグラスを学んだ 1970 年代前半は、ステンドグラスを知る日本人は多くなかったと思います。ステ

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ンドグラスの歴史が浅い日本の作家が、フランスで教会のステンドグラスの修復や制作を依頼されるほど実力をつけるのは、並大抵の努力ではなかったと思います。

偶然ですが、モンタルジには他にも日本と関連があるステンドグラスがあります。町の中心部にある聖マドレーヌ教会（Eglise Saitnte Madeleine）には、19世紀後半に作られた色鮮やかなステンドグラスがあります。その中に、日本で宣教するフランシスコ・ザビエルを描いたものがあります。フランシスコ・ザビエルはイエズス会の宣教師で、1549年に来日して



初めて日本にキリスト教を伝えました。会堂内のステンドグラスの一枚には、ザビエルの説教を聞く武士や女性と子どもが描かれています。日本人が登場する珍しいステンドグラスです。

モンタルジにあるステンドグラスには、ここを拠点に活躍した日本人作家の作品と日本を描いた作品があり、隠れた日本とのつながりを見ることができます。

